



緊急事態宣言もどこ吹く風 ~ イノシシは活動自粛しません

## 大変です！立田山周辺でイノシシ被害が急増

立田山のイノシシ探検は中止になりましたが…



立田山自然探検隊の4月例会「ちょっぴりドキドキいのしし探検(4/26)」は残念ながら中止となりましたが、この春も立田山周辺のイノシシたちの活動は相変わらず活発で「タケノコ」「家庭菜園の作物」の被害が拡大。熊本市鳥獣対策室と熊本県猟友会では、イノシシの出没や被害が多い山林や竹林に「ハコワナ」を設置して捕獲に努めていますが、繁殖力が

旺盛で、捕獲頭数を上回るスピードで増えています。

立田山の周辺に棲むイノシシの数は？ 300頭と言う人も500頭と言う人もいます。それ以上と言う人もいます。正確な頭数は分からないものの確実に増え続けています。

イノシシによる被害(事故)が全国的に増加しています

ウリボウ(生まれたばかりの幼獣)は可愛らしくて、ときどき人里に現れるイノシシ(成獣)もサツマイモやタケノコを盗み食いするぐらいで、人間に危害を加えないなら「大目に見てあげたら」という意見を聞くことがあります。

しかし増え過ぎたイノシシは「餌」を求めて、徐々に活動範囲を広げ、ジャガイモなどの根菜、クリやミカンなどの果樹の実も次々と食べるようになり、やがてゴミステーションの生ゴミを食べようと住宅地に出没するようになります。

人間の生活圏に一度入り込んだイノシシは、だんだん人間を恐れなくなります。「平成26年春、神戸市で買物帰りの女性のレジ袋の食品を狙ったイノシシが臀部を噛む」「平成30年10月、福岡市のJR今宿駅前で突然現れたイノシシが男性の太ももを噛む」「令和元年3月、玉名郡和水町の道路で竹藪から飛び出したイノシシが60代男性のバイクに衝突。頭を打った男性は9日後に死亡」「令和2年1月、大分市のゴルフ場で親子と思われるイノシシが客3人と従業員2人を襲い大けがを負わす」といった被害が発生しています。



探検隊スタッフが見つけたイノシシの痕跡



立田山自然探検隊スタッフは、昨年からは、立田山周辺の自治会の皆さん、熊本市鳥獣対策室や熊本県猟友会の皆さんと一緒に「イノシシの出没・被害調査」を続けています。

立田山で一番多くみられる痕跡は「イノシシの掘った穴」です。イノシシは雑食です。何でも食べます。土の中のミミズ、昆虫類やカナブンなどの幼虫、タケノコ、ヤマイモ、クズの根などを掘り出して食べた跡のようです。竹林や果

樹園、農地ではタケノコ、クリ、サトイモ、イネなどを食べた痕跡も見つかりました。



立田山憩い森のトンボ池上流の湿地にはイノシシが体についた虫を落とすために泥浴びをした跡(ヌタバ)があり、ヌタバの土にはくっきりとイノシシの足跡が残っています。近くの立木には、泥浴びで体についた泥を擦り付けた跡も見かけます。それこそ「運」が良ければイノシシのウンコ(糞)を発見できるかもしれません。



▲イノシシのヌタバ

昨年春の立田山北側の清水校区6町内のイノシシ被害調査では、イノシシの産屋(繁殖巣)の跡を3つも発見しました。この場所でイノシシがお産、子育てをしている動かぬ証拠です。スタッフ一同、驚きと不安で一杯になりました。



皆さんも、立田山でイノシシを見かけたり、怖い思いをしたときは、必ず熊本市鳥獣対策室(☎096-328-2369/FAX069-323-9262)に連絡してください。

## イノシシ被害防止のための「3つの管理」とは

イノシシ被害防止対策として、その1「個体管理」～イノシシを捕獲して頭数を適切な数に減らす。その2「被害管理」～農作物(サツマイモ、クリ、タケノコなど)を早めに収穫する。農地や家庭菜園を電気柵などで囲む。その3「環境管理」～餌場やねぐらになるような耕作放棄地や藪地をつくらない。この3つの管理が大切とされています。

その1「個体管理」は、熊本市と猟友会が「ハコワナ」を設置。この春、大型でハイテク駆使の「ハコワナ」も導入しました。皆さんにお願いです。ハコワナには絶対に近づかないでください。人間の匂いが移るとイノシシが警戒して捕獲できなくなります。

その2「被害管理」は、農作物を早めに収穫するばかりでなく、残飯やドッグフードなどを屋外に放置することも厳禁です。夜間のごみステーションの「生ごみ」も狙われます。電気柵で農地や家庭菜園を囲うと効果テキメンですが、設置に経費がかかるのが問題です。



その3「環境管理」は、すでに立田山周辺の清水校区や龍田西校区の自治会の皆さんが中心となって「藪地や竹林の伐採」などの活動に汗を流しています。

このように、熊本市や猟友会の捕獲活動、地域住民の農地や家庭菜園の適切管理、ゴミ出しルールの遵守、地域あげての耕作放棄地の草刈、藪地や放置竹林の伐採活動がうまく絡み合うことで「イノシシ被害防止」はさらに効果が増大すると思います。

私たち立田山自然探検隊スタッフは、立田山のイノシシの棲息状況や被害実態の調査、広報啓発活動を通して、行政や地域の皆さんと力を合わせ「チビっ子が安全で安心して遊べる立田山憩い森」であり続けるよう頑張っています。